

恵那峡における電力開発と都市形成

岐阜大学 学生会員 ○大井晴奈
岐阜大学 正会員 出村嘉史

1. はじめに

ダム式の水力発電所は、自然環境や周辺住民に大きな影響を与える巨大構造物であり、建設に反対されるケースが多い。電力会社と周辺住民の間には、いつの時代も建設するか否か、大きな問題となる。特に大正13年、日本で一番初めに造られたダム式の水力発電所である大井ダムは、木曾川下流の愛知県にも影響を与えるため、大問題だったことが当時の新聞から読み取れる¹⁾。

大井ダムが建設された当時の大井町（現恵那市大井町）は、昭和5年から昭和8年にかけて大きく拡大している（図-1）。大正12年から、大井町では、恵那峡（ダム湖）を利用した観光業が行われた。また、昭和4年には大井小学校の児童増加に伴う校舎の増築計画²⁾、昭和5年には新規道路（六間道路）の建設が行われた³⁾。江戸時代、宿場町として発展した大井町は、大井ダム建設に反対しながらも、ダム建設によって新たな都市形成が行われたと捉えられるのではないだろうか。

本研究では、大井町の都市形成にどのように大同電力（大井ダム建設会社）が関わってきたのか明らかにする。大井町と大同電力の関係に着目することで、都市形成に新たな視点を与えることができると考える。

史料は、国立公文書館、岐阜県歴史史料館、恵那市にある文書を用い、大同電力が申請した書類や大井町で行われていた計画について読み取る。岐阜県図書館にある当時のパンフレット、地図からは、時代特定されていないものについては時代特定をすすめて、視覚的に分かる町の様子を読み取る。岐阜県図書館にある当時の新聞からは、時系列の変化や文書にはない住民たちの様子を調査する。

2. 大井ダム開発における大同電力と大井町

ダム開発は、周辺都市から反対を受けるのが一般的であるが、大井町ではダム建設後に恵那峡における観光業が行われていることから、大井ダムを積極的に受け入れていた側面がある。

(1) ダム開発時の契約

大井ダムが完成する約1年半前の大正12年3月17日、大同電力と大井町の間での契約が提出された。



図-1 昭和5年（上）と8年（下）の大井町市街地

内容は、大同電力は大井町に大正12年から3年間に亘って、合計四萬円を寄付するというものである⁴⁾。大正12年の大井町議会議事録より、これには以下の条件があったことが確認できる。

- ・大井町は、大同電力の工事に関係する主管及び町民の問題に対して極力援助すること。
- ・大井町は町有地にある大同電力の発電所送電線路、附属要地に対して低価格で買渡又は賃貸すること。
- ・大井町は、大同電力工事従業員の子弟就学児童に対して、設備を整えること。

(2) 教育機関について

上記のダム開発時の契約条件の中で挙げたように、大井町が、大同電力従業員の子どものための教育設備を整えることになった。昭和4年の大井町議会議事録では、大井小学校の児童増加に伴って大井町が土地を買い上げ、校舎増築計画があったことが分かる。大正13年のダム完成から6年後のことであり、大井ダム建設を通して、大井町に住民が増えたと予想される。図-2⁵⁾には、大井町が大井小学校増築のために買い上げた土地が記載されているが、多くの土地を買収したことが分かる。

3. 北恵那鉄道大井線と大井町営観光バス

(1) 大井町による観光業

大正12年、大井町と対岸の蛭川村は、ダム遊船株式会社を創立する。さらに昭和5年からは大井町営として遊船が運営された⁶⁾。

同じ昭和5年には、大井町から大井町営遊覧船乗り場まで、六間道路と呼ばれる新規道路(町道)が建設された⁷⁾。この六間道路は、道の西側にさくらともみじを交互に植え、この道を大井町営バスが走り、後に観光道路と呼ばれるようになる。昭和5年当時の観光パンフレット(図-3⁸⁾)では見られない観光道路が、昭和7-11年刊行と推定される観光パンフレット(図-4⁹⁾)には記載されており、その上を大井町営バスが走る姿とともに描かれている。

(2) 北恵那鉄道大井線

北恵那鉄道大井線は、ダム建設時に軽便鉄道として工場の材料や林業の木材を運ぶためにつくられたものを、軌道自動車として再開させたものである。大同電力の関連会社である北恵那鉄道が、恵那峡の観光業や周辺住民の通勤・通学のために運営した¹⁰⁾。昭和3年に営業を開始したものの、乗客数は年々減少し、昭和7年に休止、昭和9年に廃止となった。鉄道省の文書には、この理由として、北恵那鉄道大井線と併行する区間に大井町営の乗合自動車が走っているため、競合して営業廃止となったと書かれている¹¹⁾。

これらのことから、観光業においては、大井町が主体となり観光業を牽引していたことが把握される。

4. 結論

大井ダムの開発により、恵那峡が広く知れ渡るようになったため、大井町の観光業は大井ダム建設によって発展したといえる。また、観光業の運営に伴って観光道路の建設や交通機関が発展した。

さらには、大同電力と大井町の間に子どもたちの教育についても契約が交わされており、小学校の児童数も増えているため、大井ダム建設によって大井町の住民が増加し、大井町が活性化されたと考えることができる。

一方、ダムは大正13年に完成したが、その後も大井町は図-1に示したように拡大を続けている。上記に示したのは、ダム建設によって労働者が増加した町の状況であり、これらの労働需要が去った後に、どのように拡大を維持したのかは、未だ把握されていない。今後の課題である。

図-2 大井町小学校増築時の調査



図-3 大井町観光パンフレット

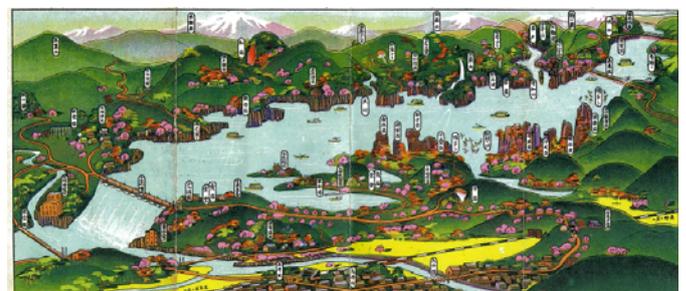


図-4 大井町観光パンフレット

参考文献

- 1) 大阪朝日新聞東海版、1922.4.20
- 2) 大井町、大井町議会議事録、1928.2.14
- 3) 大井町、大井町議会議事録、1931.3.11
- 4) 大井町、大井町議会議事録、1923.3.17
- 5) 大井町、大井町議会議事録、1928.2.14
- 6) 大阪朝日新聞岐阜版、1931.3.2
- 7) 大阪朝日新聞岐阜版、1931.1.18
『恵那市史通史編第三卷(上)』1993.1.25
- 8) 大井町、大井恵那峡案内図、1930(推定)
- 9) 大井町、大井恵那峡遊覧御案内、1932-6(推定)
- 10) 鉄道省文書、1928.11.2
- 11) 鉄道省文書、1935.7.18